

## 地域との交流「田植え」体験学習を支援して

全科履修生 **大崎 義和**

最近福井県内の各地で、生徒、児童、園児等の「田植え（手植え）」体験学習が行われている。私の住む大安寺地区でも小学校5・6年生の児童を対象とした田植えの体験学習が数十年来行われている。今回、大安寺中学校長から中学生（1～3年生）による地域との交流として田植えの体験（①地域の方と田植えから稲刈りまでを体験することで、食や農業への関心を高める。②地域の田を使って活動することで地域への愛着を深める。③地域の方と協力して田植えを体験することで、コミュニケーション能力を育てる。）を是非とも実施したいので、支援をお願いできないかと私が地区で活動しているサークル「ヤロッサ趣味ラーニング『大安』（還暦を過ぎたオジサン10数名のサークルで、やってみたいことを皆でヤロッサ＜注参照＞）に打診があり、皆に相談したところ出席者全員が支援そして体験をしてみたいということになり、田植え日は学校が希望している5月16日（水）に決定。

田植えをする田圃は、私が毎年米作りに精を出している約1000㎡（扇形状の変形田で朝夕交通量の多い道路に面していて、とっても目立つ）を使用することになり、早選手植えに必要な道具（木枠）を地元の農協に手配をお願いし、貸出しを受けることができ、一安心。

田植えの前日15日（火）の午後には会員4名が集まり、代掻きし水を落とした田圃に木枠を使って苗を移植する箇所をマークする作業を2人で行うが、次第に木枠に泥が付き思うように転がすことも難しくなり、オジサンたちにはとっては実にハードな作業となった。マーク作業は、生徒たちにも体験させることも必要だと捉え、田圃全体の4分の1程度を残して15日の作業を終えた。

例年、田植えの頃になると天候が愚図つくことが多いのですが、今年は絶好の田植え日和になりそうです。でも余りにも天気良く気温も上がるとなると、生徒たちが熱中症を発症しないかと逆に心配。



代掻き後の田圃



木枠(これを転がせてマークを施す)



マークを施した田圃

翌16日（水）には天候にも恵まれ、7名のヤロッサ「大安」会員と地元の建設会社の方5名が午前7時30分に圃場に集合、私は午前6時30分に田植え用の苗20箱（コシヒカリ：本当は福井の新ブランド米「いちほまれ」の苗が欲しかったのですが、暫くは一

般農家には出荷しなとのこと)を引取りに農協の育苗センターへ。その後、田植えがスムーズに行えるよう苗を小分けする作業を。

午前9時に大安寺中学校生徒全員(36名)と校長先生初め引率の先生8名がタクシーに分乗し圃場に到着。全員が集合したところで開会式、作業についてのオリエンテーションを行い、午前9時30分に生徒30名が一斉に田植えを開始。小学校5年・6年の時に田植えを体験しているからなんではないでしょうか?皆、躊躇すること無く上手に苗を植え付けていく様は圧巻でした。また、引率教員の中にALT(外国語指導助手)方が1名おられ、生徒たちと一緒に初めての田植え体験を楽しんでいました。そして、36名中選抜された生徒6名は、木枠を転がしマーク作業に悪戦苦闘、「簡単に転がせると思ったけど、こんなに難しいとは思わなかった」とポツリ。

体験時間は2時間と決められていたので、私たちヤロッサ「大安」会員は午後も田植え作業を覚悟していたのですが、ナント!ナント!!田植え開始から1時間足らずで、約1000㎡の田圃は植付けが完了したのです。これにはヤロッサ「大安」会員も、皆驚きの表情でした。また、田植え後の肥料散布を体験させるのも、農業への関心を高める一学習と捉え体験してもらうことにした。閉会式には、生徒から体験の感想発表そして感謝の言葉があり、サポートして良かったなと感じた一日でした。



苗の小分け作業中の会員の皆さん



私の指導の下、木枠を転がす生徒さん



横一列になって田植えする生徒さん



田圃に肥料を散布する生徒さん

田植えから2ヶ月近くとなり、苗も順調に生育し、今では田圃はグリーン色に染まっている。今後は、9月の中旬頃に稲刈り(手刈り)・刈り取った稲の運び出し・そしてハサがけを体験してもらい(本来ならば、脱穀や粃摺りなども体験して欲しいのですが)、収穫後は学校の調理室を利用して、生徒さんらと一緒に収穫祭(収穫した米でのカレーライス作り?)を中学校の先生方と相談しながら実施したいと考えている。

<注> ヤロッサ「趣味ラーニング『大安』」の『大安』名称について

- ・ 活動日は、暦注の六曜の一つ『大安』の、土曜、日曜の日
- ・ 私の住んでいる地区名「大安寺」から『大安』を借用した